

研究機関：広島大学

研究課題名	脳病変の鑑別診断におけるヒストグラム解析の有用性を検討する疫学研究
研究責任者名	広島大学大学院医歯薬保健学研究科脳神経外科学 教授 栗栖 薫
研究期間	2017年9月4日(倫理委員会承認後)～ 2018年 3月
対象者	平成 17年 1月 1日から平成 28年 12月 31日までに、広島大学病院にて転移性脳腫瘍、膠芽腫、中枢神経原発悪性リンパ腫、脳膿瘍、多発性硬化症と診断され、MR 検査に T2 強調画像とガドリニウム造影後 T1 強調画像を施行されている患者さんを対象とします。
意義・目的	<p>脳の病気の診断には MR 検査を用いることが多いですが、鑑別診断が難しいことがあり、その場合、治療方針の決定に難渋します。生体情報を持った様々な MR 検査が開発されてきましたが、データの再現性の問題、検査時間が長くなる問題、機械の性能に依存するなどの問題があり、一般化しておりません。ルーチン検査として行われることが圧倒的に多い検査が T1 強調画像、T2 強調画像、FLAIR 画像、ガドリニウム造影剤を使用した造影後 T1 強調画像で、これらは MR 検査の代表的な撮影法です。</p> <p>本研究では、この T2 強調画像と造影後 T1 強調画像を用いて、各疾患の診断を正確に行う方法を開発します。この検査法はどの MR 機種でも、すなわちどの施設でも再現可能なため、診断法が確立された時の有用性は極めて高いものになります。</p>
方法	<p>本研究は、全て診療録（カルテ）情報を転記して行います。</p> <p>カルテから転記する内容は年齢、性別、病気の診断、T2 強調画像と造影後 T1 強調画像データです。T2 強調画像と造影後 T1 強調画像データを Matlab という画像解析用のソフトウェアを用いて融合させ、融合画像から信号強度の変化を曲線で取得します（ヒストグラム解析といいます）。疾患ごとのヒストグラムのパターンを解析し、鑑別診断法の確立を目指します。</p> <p>（個人が特定出来る情報は転記しません） 本研究はヒトゲノムに関する研究ではありません。</p>
共同研究機関	なし
試料・情報の管理責任者	広島大学 教授 栗栖薫
個人情報の保護について	<p>調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。</p> <p>研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。</p>
問合せ・苦情等の窓口	<p>〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3</p> <p>Tel : 082-257-5481</p> <p>広島大学病院脳神経外科 講師 山崎 文之</p>